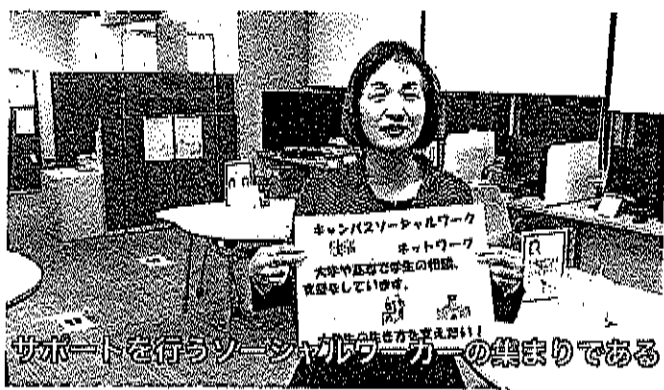


# コロナ下 学生の命救え

## 国立大自殺率 過去6年で最多

国立大学の学部生の自殺率が2020年度、過去6年の調査で最多となった。新型コロナウイルスの感染の広がりが関係した可能性があるという。学生の相談にあたるキャンパスソーシャルワーカー(CSW)らが相談を呼びかけている。



サポートを行うソーシャルワーカーの集まりである  
大学生に相談を呼びかける動画をつくったキャンパスソーシャルワークネットワークの米村美奈代表＝動画から



悩みを抱えた学生の相談にあたる山形大准教授の中澤未美子さん。本人提供

### ソーシャルワーカー 家族・学業・経済的悩み「相談を」

一般社団法人「国立大学保健管理施設協議会・メンタルヘルス委員会」の調査によると、昨年度は国立大学82校の学部生48万3032人のうち76人(男性58人、女性18人)が自殺、または自殺とみられる死因で亡くなった。自殺率では学生10万人あたり17.6人(男性21.2人、女性11.3人)で、過去6年で最多となった。

調査と分析にあたった茨城大保健管理センター所長の布施泰子教授(精神医学)は、「オンライン授業が導入され友人と交流する機会が減ったことや、アルバイトがなくなって経済的に困窮するなど自殺のリスクを高める要因が重なった」と指摘する。

悩みを抱える学生を救おうと、全国60校の公私立大で学生支援にあたる精神保健

福祉士や社会福祉士ら83人でつくる任意団体「キャンパスソーシャルワークネットワーク」(代表、米村美奈・淑徳大教授)は、約2分の動画メッセージを作成し、ホームページで公開。5人のCSWが「生活費や奨学金、アルバイトなど経済的なことで悩んでいるか」「研究に集中できないなど学業のことでお困りのことはありませんか」などと呼びかける。

米村教授によると、関東のある大学では学生が自殺未遂をし、救急搬送先の病院からCSWに連絡があった事例があったという。学生は親から虐待を受けて育ち、アルバイトで学費と生活費を稼いでいたが、シフトを減らされ生活に困窮していた。CSWは困窮学生に必要な支援策を検討し、フードバンクを通じて食料を届けたり、休まず通学できているかを継続的に見守ったりしている。

団体メンバーの中澤未美子・山形大准教授(社会福祉学)によると、同大学では自宅に引きこもり、外出できなくなってしまった学生をCSWが訪問し、定期的な相談によって回復できたケースがあったという。

キャンパスソーシャルワーカー(CSW)のホームページは (<https://sites.google.com/site/campusssw/>)。相談などはCSWのメールアドレス ([campussswnet@gmail.com](mailto:campussswnet@gmail.com)) へ。

**連絡先は**

米村教授は「学生と一緒に支援策を考えたい。親や友人に知られたくないことも一人で悩まずCSWに相談してほしい」と話す。

(小若理恵)

試験的に開設した。本格的な運営を模索している。

宮江さんは「何に困っているのか言葉にできず、相談の仕方がわからない若者が多くいる。一言でいいからヘルプを踏してほしい」と呼びかけている。

### 自宅外の「居場所」試験的に開設

自宅で過ごす時間が長くなり、親や家族との関係に悩む学生も増えている。京都精華大・学生支援センターの宮江真矢さんは「親の過干渉や暴力、家庭内不和などこれまでも同様の悩みはあったが、コロナで際立